

AH Formatter V6 では**float**機能を大幅に拡張しています。この拡張により、ページ上の任意の位置への配置や、段組みの段を跨ぐ配置など、高度なフロート機能が実現可能になりました。

フロート拡張のための様々な機能を紹介します。

axf:float-reference

フロートを配置する参照エリアを指定します。

これまでは現在の参照エリア内でのフロート配置だけでしたが、フロートを配置する参照エリアを明示的に定義することが可能になりました。ページエリアでのフロート配置、段エリア内でのフロート配置、段組みエリア内(段を跨る)でのフロート配置が可能です。

axf:float-x

水平(縦書きでは垂直)方向のフロート配置を指定します。

No.3

```
axf:float-x="right"
axf:float-y="top"
axf:float-reference="multicol"
```

axf:float-y

垂直(縦書きでは水平)方向のフロート配置を指定します。

ここまでの axf:float-reference、axf:float-x、axf:float-yの3つの拡張プロパティを使ってフロートを配置してみます。

No.1は段エリア内の配置です。x(水平方向)にrightを指定し、y(垂直)方向はnoneで、参照エリアはcolumnです。

No.1

```
axf:float-x="right"
axf:float-y="none"
axf:float-reference="column"
```

No.2はx(水平)にright、y(垂直)方向にbottomを指定し、参照エリアはpageです。

No.3は axf:float-x="right" axf:float-y="top" axf:float-reference="multicol"を指定しています。3段組みの2段抜きで、ページ右上に配置しています。

この他に、レイアウトを細かく指定するために以下のような機能があります。

axf:float-move

フロートを次のページ(または段)に移動するかどうかを指定します。

No.4のフロートは少し大きなフロートです。アンカーは[ここ](#)ですが、ページに入りきらない場合は次のページに移動します。

"auto-move"の場合はフロートを次のページ(段)に移動するか、フロートのアンカーと周りのテキストを次のページに移動します。"keep"の場合は常にアンカーとフロートを同じページに配置します。この場合、フロートの前で改ページや改段が生じます。

axf:float-min-wrap-x

フロートへのテキスト

No.2

```
axf:float-x="right"
axf:float-y="bottom"
axf:float-reference="page"
```

No.5

```
axf:float-x="left"  
axf:float-y="top"  
axf:float-reference="column"  
axf:float-min-wrap-x="5em"
```

回り込みのための幅の最小値を指定します。

No.5 のフロートでは `axf:float-min-wrap-x="5em"` を指定しています。フロートの大きさによって x 方向の文字の回り込みの幅が `5em` 以下であればテキストは回り込みません。

axf:float-min-wrap-y

フロートの前後に配置するテキスト量の最小値を指定します。

axf:float-centering-x

フロートへのテキスト回り込みのための幅が足りないときフロートをセンタリングするかどうかを指定します。

No.6 は `axf:float-centering-x="auto"` を指定しています。テキストが回り込まない場合にフロートをセンタリングすることが出来ます。

`axf:float-centering-x="5em"` のようにこのプロパティでセンタリングするかどうかの最小値を指定することも可能です。

No.4

```
axf:float-x="right"  
axf:float-y="top"  
axf:float-reference="multicol"  
axf:float-move="auto-next"
```

No.6

```
axf:float-x="left"  
axf:float-y="top"  
axf:float-reference="column"  
axf:float-min-wrap-x="5em"  
axf:float-centering-x="auto"
```

axf:float-centering-y

フロートの前後にテキストを配置する幅が足りないときフロートをセンタリングするかどうかを指定します。

axf:float-margin-x

フロートと回り込むテキストとの間のアキを指定します (x 方向)。このサンプルのフロートには全て `axf:float-margin-x="0.5em"` が指定されています。

axf:float-margin-y

フロートと前後のテキストとの間のアキを指定します (y 方向)。

axf:float-margin-x

フロートと別の隣接するフロートとの間のアキを指定します (x 方向)。

axf:float-float-margin-y

フロートと別の隣接するフロートとの間のアキを指定します (y方向)。

通常はフロート

No.7

とフロートの間はアキがありません。No.7とNo.

No.8

8のよう

に **axf:float-margin-y**

を指定するとy方向にアキが発生しますが、回り込むテキストとのアキとは別に、フロートとフロートが隣接する場合は詰めたい時にこのプロパティを指定します。

No.9 には **axf:float-margin-y="8mm"** **axf:float-float-margin-y="3mm"** が指定されています。これにより、y方向の空きは通常のmarginが8mm、y方向に隣接するNo.10のフロートとの間は3mmとして変えることができます。

axf:float-offset-

No.9

x

フロートのオフ

No.10

セット配置を指定します (x方

向)。

axf:float-offset-y

フロートのオフセット配置を指定します (y方向)。